

# ならしん景気動向調査レポート

(第10回) 2016年 10月期

奈良信用金庫 総合企画部 奈良県大和郡山市南郡山町529-6

TEL (0743-54-3116) URL <http://www.narashin.co.jp>

1. 調査期間…… 平成28年10月
2. 調査時点…… 平成28年10月 (前回調査 平成28年7月)
3. 調査対象…… 当金庫取引事業先  
※対象先は任意に選定(毎年一部見直し)
4. 調査方法…… 往訪面談・電話等によるヒアリング調査
5. 回答状況

	対象先数	回答先数	回答率
製造業	39	39	100.0%
不動産業	17	17	100.0%
サービス業	14	14	100.0%
卸売・小売業	31	31	100.0%
建設業	14	14	100.0%
運輸業	9	9	100.0%
医療・福祉	11	11	100.0%
全業種合計	135	135	100.0%

当金庫でお取引をいただいている事業先から業種に偏りのないよう135社を任意に選定させていただき、最近の業況・資金繰り等、景気動向に関連するアンケート項目の聞き取りについて、ご協力をお願いいたしました。  
うち、135社よりご回答を賜りました。

# 今回調査結果一覧

平成28年10月

全業種

	対象先数	回答先数	回答率	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI
				業況	売上金額	収益	資金繰り	前年同期比売上	前年同期比収益	残業時間	人材
製造業	39	39	100.0%	15.4%	12.8%	35.9%	30.8%	17.9%	17.9%	2.6%	-2.6%
不動産業	17	17	100.0%	17.6%	17.6%	17.6%	17.6%	-5.9%	0.0%	5.9%	11.8%
サービス業	14	14	100.0%	35.7%	28.6%	14.3%	21.4%	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%
卸売・小売業	31	31	100.0%	-12.9%	-19.4%	-25.8%	6.5%	-6.5%	-6.5%	3.2%	9.7%
建設業	14	14	100.0%	28.6%	28.6%	21.4%	42.9%	21.4%	0.0%	7.1%	0.0%
運輸業	9	9	100.0%	55.6%	44.4%	44.4%	33.3%	55.6%	55.6%	33.3%	11.1%
医療・福祉	11	11	100.0%	18.2%	9.1%	18.2%	27.3%	27.3%	18.2%	18.2%	-18.2%
全業種合計	135	135	100.0%	15.6%	11.1%	14.8%	23.7%	12.6%	10.4%	7.4%	2.2%

	借入実施		設備投資実施			
	あり	なし	あり	なし		
製造業	22	13	9	26		
不動産業	8	5	1	11		
サービス業	8	5	6	7		
卸売・小売業	14	13	7	20		
建設業	9	3	3	9		
運輸業	6	2	6	2		
医療・福祉	9	2	5	4		
全業種合計	76	43	37	79		

「DI」について

「diffusion index (ディフュージョン・インデックス)」の略で、景気・業況などの動きを示すものです。このレポートでは、お客さまからいただいたご回答のうち「良い」「やや良い」の割合から、「やや悪い」「悪い」の割合を引いたものを記載しています。

(例) 業況について ご回答 (5社)

A社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
B社	(1) 良い	<u>(2) やや良い</u>	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
C社	(1) 良い	(2) やや良い	<u>(3) 普通</u>	(4) やや悪い	(5) 悪い
D社	(1) 良い	(2) やや良い	(3) 普通	<u>(4) やや悪い</u>	(5) 悪い
E社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い

$$DI = \left[ \frac{((\text{良い} \times 2 + \text{やや良い} \times 1) \div 5社)}{[60.0\%]} - \frac{((\text{やや悪い} \times 1 + \text{悪い} \times 0) \div 5社)}{[20.0\%]} \right] = 40.0\%$$

全体調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
14.8%	15.6%	0.8%	12.6%	11.1%	-1.5%	10.4%	14.8%	4.4%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
14.1%	23.7%	9.6%	12.6%	12.6%	0.0%	15.6%	10.4%	-5.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
4.4%	7.4%	3.0%	1.5%	2.2%	0.7%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
65.6%	63.9%	-1.7%	38.1%	31.9%	-6.2%			

■概況 ※( )内はDI値

全業種合計の業況判断DIは前回調査時より0.8ポイント上昇し、良化傾向(15.6%)を継続している。しかしながら、良化幅を続伸した業種は卸売・小売業と建設業のみ。他業種については、好調な業況を継続しつつも、現状維持もしくは変化幅を下方へとむかわせ、先行きが楽観視できない状況となっている。

一方、売上については建設業のみで変化幅を上昇に拡張し、他業種は現状維持が多く見受けられた。全業種合計の売上DIは前回は1.5ポイント減少したものの、良化傾向を継続。卸売・小売業については変化幅を前回は6.5ポイント下降し、悪化傾向を深化させた。

収益面については全業種合計で前回は4.4ポイント上昇し良化傾向を継続。製造業については、受注高と販売価格の改善もあり、前回は23.1ポイントと大幅に良化傾向を続伸した。収益面で良化幅を下方へと向けた業種はサービス業と運輸業、医療・福祉の3業種。特に、サービス業については同業者競争から価格の低下を誘引し、業況は良化傾向を維持しているものの、前回は35.7ポイントと大幅に下降した。なお、10~12月の収益見通しでは、半数以上が「普通」と予想しており、現状維持を想定しているが、「やや良い」以上を回答した企業が増加したこともあり、緩やかに上昇基調をたどるものと見込まれる。

国内景気は、拡張的な財政・金融政策とともに、公共事業の増加により景気を下支えしていくとみられるが、進まない個人消費の回復と、保護主義的な政策を掲げるトランプ大統領が勝利したことで、世界的に先行き不透明感が高まっており当面不安定な動きが続くと見込まれる。

なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の63.9%となり、前回は1.7ポイント減少した。

全業種合計の前年同期比売上は全体的に前回調査時と変わりなく良化傾向を継続。前年同期比の収益についても、前回は5.3ポイント減少したものの、全体的に増加傾向(10.4%)を継続している。

なお、設備投資を行ったのは全体の31.9%であり、前回は6.2ポイント減少した。

人材不足はどの業種でも最重要課題として取り組みを継続しており、前回は0.7ポイント上昇し、改善傾向(2.2%)を若干ながら続伸。景気が好調になると人材が不足傾向に向うこともあり、今後も人材不足は継続するものと見込まれる。

慢性化する人材不足とともに、人口減少からくる顧客獲得競争の激化はどの業種でも深刻化しており、販路拡大に向け社員教育などの人的努力の強化とコスト削減による収益確保を行う姿勢が伺えた。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」20社、「どちらかといえば積極的」45社、「取組めていないが今後取組む」41社、「取組めていない」23社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」50社、「能力主義の徹底」12社、「男女間賃金格差解消」17社、「仕事と家庭の両立支援」59社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」64社、「時間外労働」27社、「離職率の高さ」21社、「顧客・取引先の理解」3社
	「男性社員の理解」8社、「女性社員の意識」28社、「育休中・復職後キャリア形成」13社
業績(10-12月見込み)	「良い」7社、「やや良い」28社、「普通」85社、「やや悪い」15社
売上額(10-12月見込み)	「良い」5社、「やや良い」32社、「普通」83社、「やや悪い」15社
収益(10-12月見込み)	「良い」5社、「やや良い」29社、「普通」85社、「やや悪い」16社

業種別の概況・経営上の問題点・当面の対策・その他特別に調査した項目については、次ページ以降に内容を記載しております。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
17.9%	15.4%	-2.5%	12.8%	12.8%	0.0%	12.8%	35.9%	23.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
2.6%	30.8%	28.2%	5.1%	17.9%	12.8%	17.9%	17.9%	0.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
15.4%	2.6%	-12.8%	2.6%	-2.6%	-5.2%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
70.3%	62.9%	-7.4%	35.1%	25.7%	-9.4%			

■概況 ※( )内はDI値

製造業全体の業況判断DIは前回調査時に比べて2.5ポイント下降したものの、依然として良化の方向(15.4%)を維持している。

一方で、売上金額は前回調査時と変わらず、依然として良化傾向(12.8%)を継続している。

収益については、前回比23.1ポイント大幅に上昇し、良化傾向(35.9%)を続伸させた。

業種全体では売上・収益両面で依然として良化傾向を継続しているものの、業況DIは変化幅を前回比2.5ポイント下降しており、原材料価格DIの悪化からみても、先行きを楽観視できる状況ではない。

販売価格については前回比7.7ポイント上昇し、DIは横ばい状態から良化傾向(7.7%)に転じた。

一方で資金繰りについては、前回比28.2ポイント大幅に上昇し、良化傾向(30.8%)を大きく拡張させた。なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の62.9%となっており、前回比7.4ポイント減少した。

前年同期比売上は前回比12.8ポイント上昇し、増加傾向(17.9%)を維持。同収益については前回調査時と変わらず増加傾向(17.9%)を継続した。残業時間は前回比12.8ポイント下降し、良化傾向(2.6%)を維持しつつも悪化方向にむかった。人材についても、前回より5.2ポイント下降し、不足傾向(-2.6%)に転じた。設備投資を行った先は全体の25.7%で、前回より9.4ポイント減少した。

■経営上の問題点

「売上停滞・減少」が12社で前回と変わらずトップ。続いて「同業者競争の激化」が11社と、依然として同業競争への対応が売上の停滞・減少に影響することを示唆する結果となった。

また、「原材料高」を挙げる企業が10社と前回比2倍となり、為替の影響も大きな問題となっている。

■当面の対策

依然、対策としては「販路拡大」が最も多く20社で重点施策とされている。同業者競争への対策として、「技術力・営業力強化」と「商品性の拡大」に注力する一方で、「経費削減」といったコスト削減と収益向上両面へ取組む姿勢が伺えた。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」6社、「どちらかといえば積極的」11社、「取組めていないが今後取組む」13社、「取組めていない」6社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」12社、「能力主義の徹底」5社、「男女間賃金格差解消」5社、「仕事と家庭の両立支援」18社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」21社、「時間外労働」7社、「離職率の高さ」5社、「男性社員の理解」1社 「女性社員の意識」8社、「育休中・復職後キャリア形成」2社
業績(10-12月見込み)	「良い」1社、「やや良い」12社、「普通」22社、「やや悪い」4社
売上額(10-12月見込み)	「良い」1社、「やや良い」15社、「普通」19社、「やや悪い」4社
収益(10-12月見込み)	「良い」1社、「やや良い」14社、「普通」20社、「やや悪い」4社

業況は、前回調査時より2.5ポイント下降したものの、依然として良化傾向を維持しております。一方で、販売価格が良化傾向に転じたこともあり、収益は良化幅を大きく続伸し、良化傾向を順調に継続しております。しかしながら、不安定な為替の影響等により原材料価格は悪化傾向にむかい、業況は良好ながらも、原材料高は売上停滞・減少に直結する重要な課題であり、対策が講じられております。

なお、今後の業績・売上額・収益の各見込み(10月~12月)については「良い」「やや良い」と回答した企業は増加し、楽観視はしていないものの今後も好調な現状を維持していくものと見込まれます。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
23.5%	17.6%	-5.9%	17.6%	17.6%	0.0%	0.0%	17.6%	17.6%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
11.8%	17.6%	5.8%	-5.9%	-5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
17.6%	5.9%	-11.7%	29.4%	11.8%	-17.6%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
60.0%	61.5%	1.5%	13.3%	8.3%	-5.0%			

■概況 ※( )内はDI値

不動産業全体の業況判断DIは前回比5.9ポイント下降したものの、良化傾向(17.6%)を継続。売上金額については前回調査時と変わらず、良化傾向(17.6%)を維持した。また、収益面では、前回比17.6ポイント大幅に上昇し、良化傾向(17.6%)に転じた。

また、資金繰りにについても前回比5.8ポイント上昇し、良化傾向(17.6%)を続伸した。なお、借入によって資金調達を行った先は全体の61.5%であり、前回比1.5ポイント増加した。

一方で、売上における前年同期比では、前回調査時と変わらず悪化傾向(-5.9%)を継続。また、同収益についても、前回調査時と変わらず、横ばい状態(0.0%)を継続した。残業時間は前回比11.7ポイント改悪したものの、良化傾向(5.9%)を維持した。人材不足については、前回調査時よりは17.6ポイント改悪したものの、改善傾向(11.8%)を維持している。設備投資は前回比5.0ポイント減少し、8.3%の先にとどまっている。

■経営上の問題点

経営課題としては、前回と同様「同業者競争の激化」が8社でトップ。次点で「経費の増加」が4社、「在庫調整」「仕入高」が各々3社となった。前回6社で挙げられた「商圏人口の減少」が2社と減り、人口減少が確実に進行していく中で、どう対応していくかに焦点があたる結果となった。

■当面の対策

「販路拡大」に注力する企業が9社で依然としてトップ。続いて、「情報力の強化」、「宣伝・広告の強化」が各々5社となり、引き続き、同業者間競争への対抗策として人的努力を強化していく姿勢が伺える結果となった。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」3社、「どちらかといえば積極的」5社、「取組めていないが今後取組む」2社、「取組めていない」5社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」6社、「男女間賃金格差解消」2社、「仕事と家庭の両立支援」6社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」7社、「時間外労働」3社、「離職率の高さ」1社、「顧客・取引先の理解」1社 「男性社員の理解」3社、「女性社員の意識」2社、「育休中・復職後キャリア形成」1社
業績(10-12月見込み)	「良い」2社、「やや良い」2社、「普通」12社、「やや悪い」1社
売上額(10-12月見込み)	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」12社、「やや悪い」1社
収益(10-12月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」13社、「やや悪い」1社

前回大幅に拡張した業況DIは、若干変化幅を縮小したものの、依然として良化傾向を継続しております。売上額DIについては前回比変わらず良化傾向を継続、また、収益については良化傾向に転じており、売上・収益ともに好調に推移しております。  
マイナス金利の影響もあり住宅ローン金利の低下等が追い風になっているものの、確実に減少傾向を辿る人口に対して、いかにして他社との競争に打ち勝ち販路を拡大させていくかが重要な課題となってきております。  
業績・売上額・収益の見込みは大半が「普通」となっており、前回に比べて「良い」「やや良い」と回答した企業が若干ながら増加し、好調な現状を維持していくものと見込まれます。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
42.9%	35.7%	-7.2%	42.9%	28.6%	-14.3%	50.0%	14.3%	-35.7%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
50.0%	21.4%	-28.6%	35.7%	14.3%	-21.4%	28.6%	14.3%	-14.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
-7.1%	7.1%	14.2%	-14.3%	0.0%	14.3%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
53.8%	61.5%	7.7%	50.0%	46.2%	-3.8%			

■概況 ※( )内はDI値

医療・福祉を除くサービス業の業況判断DIは、前回は7.2ポイント下降したものの、依然として良化傾向(35.7%)を継続している。売上金額についても、前回は14.3ポイント下降したものの、増加傾向(28.6%)を継続。また、材料価格DIは前回は7.1ポイント下降したものの、良化傾向(14.3%)を継続した。収益についても、前回は35.7ポイントと大幅に下降したものの、良化傾向(14.3%)を継続した。

また、借入によって資金調達を行った先は全体の61.5%であり、前回は7.7ポイント上昇した。

一方で、前年同期比売上は前回は21.4ポイント減少したものの、依然として増加傾向(14.3%)を継続。同収益についても前回は14.3ポイント減少したものの、良化傾向(14.3%)は維持した。

残業時間は前回は14.2ポイント上昇し、良化傾向(7.1%)に転じ、人材についても前回は14.3ポイント改善し横ばい(0.0%)となった。設備投資を行った先は全体の46.2%で、前回調査時より3.8ポイント減少した。

■経営上の問題点

「同業者間競争の激化」「経費の増加」が各々5社でトップ。前回トップだった「人手不足」が次点で4社。人材確保に注力してきた結果、人材DIも改善傾向に向ったが、それに伴う経費の増加は依然として重要な課題として認識されている。

■当面の対策

依然として「人材確保」が6社でトップ。次点で「販路拡大」が5社で対策として挙げられ、商圏人口の減少が進展する中で生き残りをかけて、販路拡大に注力する姿勢が伺える結果となった。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」3社、「どちらかといえば積極的」7社、「取組めていないが今後取組む」2社、「取組めていない」2社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」7社、「能力主義の徹底」1社、「男女間賃金格差解消」3社、「仕事と家庭の両立支援」5社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」7社、「時間外労働」3社、「離職率の高さ」3社、「男性社員の理解」1社 「女性社員の意識」2社、「育休中・復職後キャリア形成」3社
業績(10-12月見込み)	「良い」1社、「やや良い」5社、「普通」8社
売上額(10-12月見込み)	「やや良い」6社、「普通」8社
収益(10-12月見込み)	「やや良い」6社、「普通」8社

前回大幅に上昇した業況DI、売上の状況ともに変化幅を下方へと引下げたものの、依然として好調を維持しております。業況が著しく好調だった前回から若干の落ち着きをみせながらも、全項目のDIで好調を継続しており、その反面、業況と反比例する人材不足に関しては改善傾向を示す結果となりました。商圏人口の減少は、サービス業にとって重要な問題であり、いかんにして販路を拡大し、顧客を確保していくかが生き残りの鍵となっております。今後3ヶ月の、業績・売上額・収益の見込みは「良い」と回答した企業が前回より大幅に増加し、好調な業況が継続すると見込まれます。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-19.4%	-12.9%	6.5%	-12.9%	-19.4%	-6.5%	-22.6%	-25.8%	-3.2%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
0.0%	6.5%	6.5%	-3.2%	-6.5%	-3.3%	-6.5%	-6.5%	0.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
-6.5%	3.2%	9.7%	3.2%	9.7%	6.5%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
55.6%	51.9%	-3.7%	40.7%	25.9%	-14.8%			

■概況 ※( )内はDI値

卸売・小売業全体の業況判断DIは前回は6.5ポイント上昇したものの、依然として悪化傾向(-12.9%)を継続した。一方で売上に関しては、前回は6.5ポイント下降し、悪化傾向(-19.4%)を深化させた。また、収益についても前回は3.2ポイント下降して、依然として悪化傾向(-25.8%)を継続している。仕入れ価格については、依然として悪化傾向(-6.5%)を継続したものの、前回は6.5ポイント上昇した。

在庫過多は前回は6.5ポイント悪化し、悪化傾向(-12.9%)を拡大した。加えて、販売価格についても前回は6.5ポイント下降し、悪化傾向(-22.6%)を拡大している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の51.9%となり、前回は3.7ポイント下降した。

前年同期比売上は前回は3.3ポイント下降し、悪化傾向(-6.5%)を継続。同収益については前回調査時と変わらず、悪化傾向(-6.5%)を継続した。残業時間は前回は9.7ポイント上昇し、改善傾向(9.7%)に転じ、人材不足は前回は6.5ポイント上昇し、改善傾向(9.7%)を続伸した。設備投資は25.9%の先となり、前回は14.8ポイントの減少となっている。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」と「売上停滞・減少」が各々13社でトップ。次点で「材料高」が7社、「商圏人口の減少」が6社と続いている。販売価格の低下もあり、材料高は収益を圧迫する状況にありあわせて、消費の低迷による売上停滞と、依然として業況は厳しい状況にあることを示唆している。

■当面の対策

依然として「販路拡大」が17社でトップ。次点で材料高・販売価格の低下による収益圧迫をカバーするための「経費節減」が10社で対策として挙げられた。また、「宣伝・広告の強化」「技術力・営業力強化」といった人的努力に注力する姿勢が強くなってきた。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」2社、「どちらかといえば積極的」14社、「取組めていないが今後取組む」10社、「取組めていない」5社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」10社、「能力主義の徹底」3社、「男女間賃金格差解消」4社、「仕事と家庭の両立支援」12社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」12社、「時間外労働」5社、「離職率の高さ」7社、「顧客・取引先の理解」1社 「男性社員の理解」1社、「女性社員の意識」8社、「育休中・復職後キャリア形成」1社
業績(10-12月見込み)	「やや良い」2社、「普通」24社、「やや悪い」5社
売上額(10-12月見込み)	「やや良い」2社、「普通」24社、「やや悪い」5社
収益(10-12月見込み)	「やや良い」3社、「普通」22社、「やや悪い」6社

依然として低調な個人消費が続いており、業況・収益DIともに悪化傾向から抜け出せない状況にあります。消費動向が軟調な中、材料高と販売価格の低下が収益を圧迫しております。また、収益向上の足かせとなる商業人口の減少への対応策として販路拡大を図るため、人的努力に注力する姿勢が伺える結果となりました。

業績・売上・収益見込みについては、大半の企業が「普通」と回答しておりますが、「やや良い」と回答した企業が前回より減少し、今後も低調な業況が続いていくことを示唆しております。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	7.1%	21.4%	14.3%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	21.4%	7.1%	14.3%	0.0%	-14.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
-14.3%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
71.4%	75.0%	3.6%	35.7%	25.0%	-10.7%			

■概況 ※( )内はDI値

建設業全体の業況判断DIは前回は14.3ポイント上昇し、依然として良化傾向(28.6%)を継続している。売上金額についても、前回は14.3ポイント上昇し、良化傾向(28.6%)を続伸させた。受注残高については、前回は7.1ポイント上昇して、良化傾向(21.4%)を継続した。

資金繰りは前回は14.3ポイント上昇し、良化傾向(42.9%)を継続。収益については、請負価格や原材料価格の良好な業況もあり、前回は14.3ポイント上昇し、好調に良化傾向(21.4%)を拡大させた。

借入によって資金調達を行った先は75.0%で前回は3.6ポイント増加した。

前年同期比売上は前回は7.1ポイント上昇し、良化傾向(21.4%)を継続。一方で、同収益については前回は14.3ポイント下降し、横ばい状態(0.0%)となった。

残業時間は前回は21.4ポイント上昇し、改善傾向(7.1%)に転じた。

人材不足については前回調査時と変わらず、横ばい状態のまま。

なお、設備投資を行った先は25.0%となっており、前回は10.7ポイント減少した。

■経営上の問題点

依然として「同業者競争の激化」が6社と最も多く、次点で「人手不足」と「売上停滞・減少」が各々4社と続いた。経費節減に加え人手不足解消に向けた人件費の増加についても、問題点として挙げられる。

■当面の対策

「技術力・営業力強化」が7社でトップ。次点で、「社員教育」「情報力の強化」「人材確保」「経費節減」が各々4社と続いた。確保した人材をいかに育てるかに注力し、「人財」で他社との差別化を図り同業者間競争に打ち勝とうとする姿勢が伺える結果となった。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」0社、「どちらかといえば積極的」1社、「取組めていないが今後取組む」9社、「取組めていない」3社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」3社、「能力主義の徹底」2社、「男女間賃金格差解消」1社、「仕事と家庭の両立支援」7社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」7社、「時間外労働」4社、「離職率の高さ」2社 「女性社員の意識」4社、「育休中・復職後キャリア形成」2社
業績(10-12月見込み)	「やや良い」3社、「普通」9社、「やや悪い」2社
売上額(10-12月見込み)	「やや良い」3社、「普通」9社、「やや悪い」2社
収益(10-12月見込み)	「やや良い」1社、「普通」11社、「やや悪い」2社

前年同期収益を除く全項目でDIの変化幅を上方に拡大し、良好な業況を伺わせる結果となりました。受注高と施工高が順調に拡張したことで売上・収益ともに良化傾向を続伸しましたが、売上停滞を問題視する姿勢が強くなり、いかにして同業者との差別化を図り顧客を獲得していくかが課題となってきております。人材確保とともに人材育成に取り組む姿勢が伺える結果となりました。

10~12月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」が大多数としながらも、「やや悪化」と回答した企業が若干減少し、先行きを楽観視はしていないものの、現状を継続しているものと見込まれます。



業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
55.6%	55.6%	0.0%	44.4%	44.4%	0.0%	55.6%	44.4%	-11.2%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
22.2%	33.3%	11.1%	44.4%	55.6%	11.2%	44.4%	55.6%	11.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
11.1%	33.3%	22.2%	-11.1%	11.1%	22.2%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
66.7%	75.0%	8.3%	66.7%	75.0%	8.3%			

■概況 ※( )内はDI値

運輸業全体の業況判断DIは前回調査時と変わらず、良化傾向(55.6%)を継続している。  
 売上金額についても、前回調査時と変わらず、依然として増加傾向(44.4%)を継続している。  
 燃料価格は前回比22.2ポイント下降し、悪化傾向(-11.1%)に転じた。一方、収益面についても  
 前回比11.2ポイント下降したものの、良化傾向(44.4%)を継続している。  
 資金繰りは前回比11.1ポイント増加し、良化傾向(33.3%)を継続している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の75.0%であり、前回比8.3ポイント増加した。

前年同期比売上は前回比11.2ポイント上昇し、増加傾向(55.6%)を継続。  
 同収益も同様に、前回比11.2ポイント上昇し、増加傾向(55.6%)を継続している。  
 残業時間は前回比22.2ポイント上昇し、改善傾向(33.3%)を拡張している。

また人材不足解消に注力してきた結果、人材不足は前回比22.2ポイント上昇し、良化傾向  
 (11.1%)に転じた。  
 なお、設備投資を行った先は75.0%となり前回比8.3ポイント増加となった。

■経営上の問題点

「人手不足」と「同業者間競争の激化」が各々4社でトップ。続いて「値下げ要請」と「経費の増加」  
 が各々2社で問題点として挙げられ、燃料価格、料金価格の悪化に伴う経費削減が意識されている。

■当面の対策

「社員教育」と「人材確保」が各々6社で依然としてトップ。続いて「経費節減」と「販路拡大」が各々4社  
 となり、将来的な収益に繋がる顧客拡大とコスト削減に取り組む姿勢が伺える結果となった。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」2社、「どちらかといえば積極的」1社、「取組めていないが今後取組む」4社、「取組めていない」2社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」6社、「能力主義の徹底」1社、「男女間賃金格差解消」1社、「仕事と家庭の両立支援」2社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」5社、「時間外労働」3社、「顧客・取引先の理解」1社、「男性社員の理解」2社 「女性社員の意識」2社
業績(10-12月見込み)	「良い」3社、「やや良い」1社、「普通」4社、「やや悪い」1社
売上額(10-12月見込み)	「良い」3社、「普通」5社、「やや悪い」1社
収益(10-12月見込み)	「良い」3社、「普通」5社、「やや悪い」1社

業況・売上ともに好調な良化傾向を継続しております。収益についても、変化幅を下方に進めたもの  
 の、良化傾向を継続しておりますが、料金価格・燃料価格については前回比大幅に下降し、いずれも  
 悪化傾向に転じました。人材確保に注力する結果、人件費が増加することに加え、燃料価格が不安  
 定要素となりコスト圧縮を強く意識する動きが伺える結果となりました。  
 今後の業績・売上額・収益見込みについては、為替の不安定要素等を抱えながらも、楽観視はできな  
 いものの良好な現状を継続していくものと見込まれます。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
18.2%	18.2%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	27.3%	18.2%	-9.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
27.3%	27.3%	0.0%	54.5%	27.3%	-27.2%	54.5%	18.2%	-36.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
9.1%	18.2%	9.1%	-18.2%	-18.2%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
90.0%	81.8%	-8.2%	40.0%	55.6%	15.6%			

■概況 ※( )内はDI値

医療・福祉分野の業況判断DIは前回調査時と変わらず、良化傾向(18.2%)を継続。  
 売上金額についても前回調査時と変わらず、依然として増加傾向(9.1%)を維持している。  
 通院者数については前回比9.1ポイント減少したものの良化傾向(9.1%)を維持し、ベッド稼働に  
 ついても前回比18.2ポイント下降したものの、良化傾向(18.2%)を継続した。  
 一方で、収益についても前回比9.1ポイント下降したものの、依然として良化傾向(18.2%)を維持した。  
 また、資金繰りについても前回調査時変わらず、良化傾向(27.3%)を継続した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の81.8%であり、前回比8.2ポイント減少している。

前回大幅に上昇した、前年同期比売上は前回比27.3ポイント下降したものの、良化傾向(27.3%)を継続。  
 同収益についても、前回比36.3ポイント下降したものの、良化傾向(18.2%)を継続した。  
 残業時間は前回比9.1ポイント上昇し、改善傾向(18.2%)を継続した。  
 人材面では、前回調査時と変わらず、不足傾向(-18.2%)を継続させた。  
 加えて55.6%の先で設備投資を行っており、前回比15.6ポイント増加した。

■経営上の問題点

依然として「人手不足」が最も多く7社。続いて「人件費の増加」と「売上停滞・減少」が各々3社。  
 慢性的な「人手不足」は深刻さを増し、大きな課題として捉えられている。

■当面の対策

「人材確保」が依然として最も多く全体の64%の企業で対策として挙げられている。次点で「情報力の  
 強化」が続き、社員育成や技術力・営業力の強化といった人的努力に加えて、他者との差別化を図る  
 取組みとして情報を活用した戦略強化を図る姿勢が伺える結果となった。

■特別調査	「女性の活躍推進状況」および、今後3ヶ月(10-12月)の業績見込み
女性が活躍できる職場作りへの取組状況	「積極的に取組んでいる」4社、「どちらかといえば積極的」6社、「取組めていないが今後取組む」1社
女性の活躍を進めるための取組	「意欲ある女性を積極的に登用」6社、「男女間賃金格差解消」1社、「仕事と家庭の両立支援」9社
女性が活躍する上での課題	「仕事と家庭の両立支援」5社、「時間外労働」2社、「離職率の高さ」3社 「女性社員の意識」2社、「育休中・復職後キャリア形成」4社
業績(10-12月見込み)	「やや良い」3社、「普通」6社、「やや悪い」2社
売上額(10-12月見込み)	「やや良い」3社、「普通」6社、「やや悪い」2社
収益(10-12月見込み)	「やや良い」3社、「普通」6社、「やや悪い」2社

業況は依然として良化傾向を維持しております。しかしながら、ベッド稼働率と通院者数は前回より変  
 化幅を下方へとむけ、それに伴い収益についても良化傾向を継続しているものの、変化幅は下方へと  
 向かい良好な業況に陰りをみせる結果となりました。  
 依然として問題視されている人材不足については、改善の兆しもなく、重点施策として取組む企業が  
 以前にも増して増える結果となりました。  
 10~12月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」としたものの、前回は無  
 かった「やや悪い」と回答した企業もあり、業況は不安定であると見込まれます。